

# 性犯罪被害者のための法制度を考える

常磐大学国際被害者学研究所第5回シンポジウム開催



▼2日目のスウェーデン・ウメオ大学講師、リーナ・ランドストロム氏の講演。  
 ▲基調講演者・基調報告者に対し、会場からは次々と質問が寄せられた。

**2** 009年度から取り組まれてきた研究プロジェクト「子どもの被害者を含む性犯罪被害者保護のための制度設計」(コーディネーター:守屋典子准教授)の一環として、国際被害者学研究所の第5回シンポジウム『性犯罪被害者のために法制度はどうあるべきか』が、12月4日・5日の2日間東京で開催された。

初日の会場「女性と仕事の未来館」(港区)には、全国各地から約120名が参加。自ら性犯罪被害を体験し、現在は被害者支援に奔走している在日オーストラリア人ジェーン氏、そして、アメリカ・ニューヨーク市の性犯罪被害者施策で中核的役割を果たしている民間機関「アライアンスー性暴力に反対するニューヨーク市連合」代表のハリエット・レツセル氏が基調講演を行った。また、警察庁犯罪被害者支援室長の杉本孝氏から、近年の警察の取り組みについて報告がなされ、ニーズに即した支援のあり方や、被害者の尊厳が守られる制度づくりの重要性について理解を深めた。



2日目は、東北大学東京分室(千代田区)を会場として約80名が参加。スウェーデン・ウメオ大学講師のリーナ・ランドストロム氏による基調講演に続き、パネルディスカッションが行われ、専修大学法科大学院教授の岩井宜子氏らとともに、諸外国の制度に照らしながら日本における課題を検証した。最後に、2日間の成果をまとめる形で15項目に上る『大会提言』\*を採択。被害者が、安心して被害届の提出や告訴ができる法制度の構築をめざして、意義ある一歩を押し進める機会となった。

\*『大会提言』は、研究所ホームページ(<http://www.tokiwa.ac.jp/~tivi/>)からダウンロードが可能

## 優れた国語の授業を体験することで、指導の方法を学び 国語教育の授業力向上に貢献する

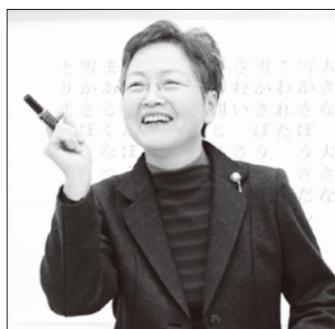
### ● 国語教育実践研究会開催

常磐大学教育実践研究所が主催する国語教育実践研究会が、12月11日に開催された。この研究会は、これまで教育実践研究所が行ってきた専門講座等開講の一環として行われたもので、今回のテーマは『国語の授業力の向上をめざして』。国語教育に対する指導力が高く評価される佐藤康子氏と京野真樹氏をお招きし、お二人の授業を実際に体験することで、指導の方法を学び、国語教育の授業力向上に資することが目的だ。

まず教壇に立ったのは、秋田県教育専門監の京野真樹氏。京野氏は秋田大学教育学部(現・教育文化学部)附属小学校に在籍当時、NHKの番組『わくわく授業 ～わたしの教え方～見た、気づいた、作文ができた』で紹介された作文指導の名人。今回は、鈴木敏史氏書いた『すいっちょ』という詩を教材に、文章を丁寧に読み込むことで見えてくる詩に描かれている情景や、背景に流れる心理描写などの読み解き方を楽しく指導していただいた。

次に、青森明の星短期大学教授の佐藤康子氏が授業を展開。現在も国語教育や道徳教育を中心として学習指導の講演や授業を行う佐藤氏は『雪かきぼうぎ』という子どもの視点で書かれた詩を教材に、生徒を褒めることの重要性や板書する際の工夫などをレクチャーした。「語り合い、聴き合い」の授業展開を可能にするための指導ポイントを解説する、実践的で分かりやすい授業となった。

当日は常磐大学の学生や教職員をはじめ地域の教育関係者が多数参加し、お二人の授業に熱心に耳を傾けていた。



佐藤康子氏 ● 青森県生まれ。弘前大学教育学部小学校教員養成課程卒業。青森市教育委員会指導課長補佐、青森市内小学校校長を務め、2005年定年退職。その後、弘前大学教育学部非常勤講師を務め、2006年度弘前大学教育学部客員教授、青森明の星短期大学教授となり、現在に至る。



京野真樹氏 ● 秋田県生まれ。秋田大学教育学部小学校教員養成課程卒業。公立小学校勤務を経て、1997年より秋田大学教育学部(現・教育文化学部)附属小学校に勤務。2008年、秋田県教育委員会より教育専門監に任命され、2010年からは潟上市の小学校教員を兼務し、現在に至る。

## TOKIWA COLUMN

ときわコラム

### 「見えないものを見えるようにする」

❖ 諸澤 篤子 (学校法人常磐大学 理事)

前号の記事にもあったが、学校法人常磐大学開学100周年記念講演会の中で、画家の藪野健早稲田大学教授は「絵描きの役割は見えないものを見えるようにすること」と話された。例として示されたのは「日本橋から神田方面を望む」という作品で、その絵には、今は取り壊されてしまった風情のあるかつてのビルが、立ち並ぶ新しい建物の間に忽然と蘇ったかのように画かれていた。現実には見えないものが絵の中ではまさしく、見えるようになっている。

今まで何となく、絵というのは見えるものを画くような気がしていた。だが確かにその絵のように、今はもう現実には存在せず、かつてそれを見た人の記憶の中にしかないものも画かれる。また、以前も今も現実にはなくて、画家のイメージの中にしか存在しないもの、言い換えれば画家という個人が「心の目」で見ただけのものすら、絵画という作品の中では見えるようになる。

ところで、日頃私たちは、案外見えないものを見ていることに気がつく。夜見る夢もその一つだが、「子どもの頃縁側に座っておやつを食べながら見た夕焼けの景色」や「冬の朝学校のベランダから見た

## 虐待を受けた子どもの理解と支援の重要性を講演

● 心理臨床センター公開講演会開催



常磐大学心理臨床センターが主催する公開講演会が、11月21日に開催された。今回は、子どもの虹情報研修センター研修部長で臨床心理士の増沢高氏を講師としてお招きし、『虐待を受けた子どもの理解と支援』というテーマで講演していただいた。増沢氏は、まず虐待と精神疾患の関係性に触れ、精神的にも肉体的にも追いつめられた状況で発生する領域別の問題を解説した。次に、虐待の心身にもたらす影響を、子どもの発達の見点を中心に分析。さらに、被虐待児が回復に至るプロセスを、実際の症例を交えながら紹介した。そして『安心感、信頼感から始まる育ち直りを支える』『自分自身や過去を振り返る過程を支える』『将来に向け生きる力を強化する過程』という3段階の支援体制を提言。最後に「施設から出た被虐待児を受け入れる社会環境づくりが大切だ」と、講演を締め括った。

## 利用者主体の福祉サービスに必要な条件を研究

● 渡邊 修宏さん 第12回川井記念賞受賞

常磐大学大学院コミュニティ振興学研究科修士課程修了後、人間科学研究科博士課程(後期)を単位取得満期退学した渡邊修宏さんと、指導教員の森山哲美教授が共同で執筆した研究論文、『利用者主体の福祉サービスの実践条件に関する職員と利用者の認識』が第12回川井記念賞を受賞した。川井記念賞とは、財団法人厚生統計協会が研究者の研究論文の奨励を図るために設けた賞で、月刊誌『厚生指標』に掲載された論文の中から優れたものに与えられる。渡邊さんの論文は、福祉サービスに対する施設職員と利用者の認識を比較し、利用者主体の福祉サービスに必要な条件をまとめたもの。結果として職員は外的要因を重視し、利用者はサービスの内容を重視していることが明らかにされている。

受賞に際して渡邊さんは「素直に嬉しいですが、研究としては、まだ途中の経過報告。次に結びつけていかなければなりません。私は大学院に入る前は福祉施設で働く実践者だったので、研究を研究で終わらせることなく、理論と実践を完成させたいと思っています」と、次のステージを見据えていた。



◀ 第12回川井記念賞を受賞した渡邊修宏さん。現在は水戸総合福祉専門学校で教職に就く。

TOKIWA COLUMN

真っ白な富士山」など印象的な風景は、いつでも見ようと思えばありありと目の当たりに「見る」ことができる。この場合は記憶の中のイメージを「見」ているのであって、他の人には見えない。記憶の中のイメージは、全体像としてはかなりはっきりしているのに、細部を丁寧に見ようとするとスッと消えてしまう。画家はこれをどうやって書きあらわすのだろうか。

絵画という芸術作品の中にそれを画くためには、もちろん卓越した絵画の技術は前提になるのだろう。昨秋、国立新美術館で開催されたゴッホ展を見たが、美術展の展示物としてはめずらしい「パースペクティブ・フレーム」という、遠近法を習得するための道具が展示されていた。脚の付いたかなり大きな木製の道具で、ゴッホはそれを用いて非常に熱心に技術の向上に専念していたという。情熱のおもむくまま、ただイメージを炎のように表現していたと思われていたゴッホの、意外な側面である。

先の藪野先生は建築学を学ばれていて、古い建物を画く時には、当時の設計図を使って建物の正確な形を再現し、イメージを明確にして画かれるそうだ。才能と卓越した技術、さらに科学的な道具立ても加わり、画家は見えないものを見えるようにする。そうやって描き出された絵は、現実存在するもの以上の迫力を得て見る人に迫り、その心の中に共感と感動を呼び起こす。



## Tokiwa Interview

## 現在の日本に求められる教育とは

橋本 五郎 氏

(学校法人常磐大学 評議員)

優れた人材の育成は、今後の日本が発展するための重要なカギを握る。しかし教育の現場には、多くの課題が残されていることも事実だ。そこで今回は、政治評論や新聞のコラムなどを担当するほか、テレビのコメンテーターとしても活躍する橋本五郎先生に、日本の教育についてお話を伺った。

「教育問題というと、ゆとり教育など制度の話になりがちです。しかし、教育で最も重要なのは先生だと思います。先生を磨き、大切にします。先生とは、一人の人間の人生を左右することもある聖職者であると思っています。だから先生もそれだけの誇りを持って、常に子どもたちのことを考えていただきたいですね。私が高校2年のときに、赴任してきた先生がいました。その先生は、私たちにこう言いました。『君たちは、いつ、どこで、誰にこう問われても、直ちに答えられる人間になってほしい。その問いとは“汝、何の為にそこに在りや”』と。君はいま、何故ここに居るのか…この問いに答えることは難しく、先生の声がいまでも頭をよぎることがあります。真の教育者というのは、このように生徒の人生にいつまでも影響を与える存在なのではないでしょうか」

では、いまの教育で力を入れるべきポイントとはどこなのだろうか。

「大切なのは、想像力を働かせることだと思います。いろいろな文章を読み、自分の記憶を糧に広く深く想像力を働かせる。例えば歴史を勉強する場合でも、その時代の様子を思い浮かべながら学ぶと歴史に対する共感が生まれてきます。現在はインターネットが発達して、さまざまなことを瞬時に調べることができるようになりました。しかし、調べるプロセスが手軽すぎて、内容が記憶に留まらずに流れてしまう。そこで、私が子どもたちに勧めているのが、新聞の切り抜きです。長期的な問題を追いか

生徒の人生に影響を与える教育者たちに期待。

関連する記事を切り抜き、自分なりにファイルを作る。すると記事を選ぶとき、切り抜くとき、貼るときと3回読むことになります。それを1カ月くらい続けていると、まとめが掲載されることがあります。そのまとめで全体を把握すれば、問題を体系的に捉えることができるようになる。これは非常に大事なことで、物事を理解する場合、時代や歴史といった広い視野で捉える『鳥の目』と、人物像など細部にこだわる『虫の目』が必要です。新聞の切り抜きは、この2つの目をバランス良く養ってくれます。また、想像力を身に付けるためには読書も重要だと思います。読書の効用はすぐに現れるものではありませんが、その人の中に沈殿して長い歳月を経ることで程よく熟成し、香り立ってくるもの。教育も同じですね」

橋本先生は、現在、読書で地方を活性化するためのあるプロジェクトを推進している。

「私が通っていた秋田の小学校が、一昨年、廃校になってしまいました。そこで、私の蔵書を約2万冊寄贈して、校舎を活用した図書館を作る計画を進めています。しかし、過疎化が進む村なので予算が少なく、本の分類から運搬までボランティアの手を借りながらの作業です。ただ、一から自分たちで作っている実感があるので思い入れも深く、そこから何かが始まるのではないかと期待しています」

この『橋本五郎文庫』は、地域の方々が提供する書籍を加え2011年4月にスタート。さまざまな人たちの熱意により、村民の学びと交流の拠点が誕生する。



はしもと・ごろう ●慶應義塾大学法学部政治学科卒業。1970年に読売新聞入社。1997年政治部長、1998年編集局次長を経て、2001年読売新聞編集委員。1999年には日本テレビキャスターとして「ジパングあさ6」「ズームイン!!朝!」に出演。現在は「ズームイン!!SUPER」に出演中。2006年に読売新聞特別編集委員に就任し現在に至る。主な著書に『範は歴史にあり』(藤原書店)など。

## ●2010年度卒業予定者の就職内定状況

2010年度は全国的に企業等の採用抑制傾向が続く中、茨城県内新卒採用企業の実験者はUターン学生やIターン学生の割合が増加し、地元志向の強い常磐大学・常磐短期大学の学生にとって内定獲得のハードルはより高いものとなった。

そうした就職環境の下、2010年12月末までの就職内定状況は大学、短期大学ともにほぼ前年度並みに推移している。しかし、2010年秋以降は求人企業数が一層減少しており、一人でも多くの学生が就職内定を獲得できるよう更に求人企業の発掘に努め、就職活動を全力で支援していく。

## ●2011年度卒業予定者への就職支援

企業業績見通しは引き続き不透明な状況にあり、2011年度も企業の採用抑制方針が続くものと予想される。このような情勢を踏まえ、常磐大学・常磐短期大学では就職支援プログラムを2010年度以上にきめ細やかに前倒して実施している。計画的、効果的に就職活動を進め、早期に内定を獲得するための就職ガイダンスは例年の5月と9月に加えて2011年1月にも開催した。履歴書・エントリーシートの書き方や筆記試験対策、面接試験対策講座などの採用試験対策講座も繰り返し実施し、採用試験を突破する準備を整えてきた。

今後は学内会社説明会や個別相談を充実させ、早期内定獲得に向けて学内一丸となって支援していく。

### 主な就職内定先 (2010年度卒業生)

常磐大学	
業種	企業名
製造業	住友金属工業株式会社鹿島製鉄所
医療・福祉	株式会社日立製作所日立総合病院
運輸・郵便業	東日本旅客鉄道株式会社
卸売・小売業	寺島薬局株式会社
	株式会社カスミ
	株式会社ケーズホールディングス
	茨城トヨペット株式会社
	株式会社山新
金融・保険業	株式会社三井住友銀行
	株式会社常陽銀行
	茨城県信用組合
複合サービス事業	日本郵政グループ (郵便局株式会社、郵便事業株式会社)
	JAグループ (JA茨城中央、JA水戸、JA茨城ひたち他)
地方公務	茨城県庁、水戸市役所、笠間市消防本部 茨城県警察本部、千葉県警察本部
常磐短期大学	
業種	企業名
製造業	日立アプライアンス株式会社
電気・ガス・熱供給・水道業	東京電力株式会社
運輸・郵便業	ヤマト運輸株式会社
卸売・小売業	株式会社JR東日本リテールネット
	株式会社カスミ
	株式会社ケーズホールディングス
	トヨタ部品茨城共販株式会社
金融・保険業	株式会社常陽銀行
	株式会社東邦銀行
	水戸信用金庫
	水戸証券株式会社
複合サービス事業	日本郵政グループ (郵便局株式会社)
	JAグループ (JA水戸)
地方公務	水戸市役所 つくば市公立保育所

## ホームカミングデー開催

### 常磐大学、常磐短期大学卒業生が母校に集う

10月23日に常磐大学見和キャンパスにおいて常磐大学1993年度(人間科学部8期生)卒業生を対象としたホームカミングデーを開催した。家族を含む卒業生16名、教員8名の計24名が出席。また、12月19日には常磐短期大学幼児教育保育学科2009年度卒業生対象のホームカミングデーを開催。卒業生21名、教職員12名の計33名の参加があった。

大学のホームカミングデーでは、高木勇夫学長から当時から現在に至る大学の変遷、今後の展望についてのお話に続き、教員や卒業生からの近況報告があった。また、当時のVTRを観賞しながら卒業生・教員とも再会を喜び、親交を深めることができた。最後に参加者全員で校歌を斉唱し、盛会のうちに閉会した。

短期大学のホームカミングデーは教員の近況報告を交えながら、懐かしい思い出話に花を咲かせるとともに、保育者として働く卒業生にとっては、仕事の相談をする絶好の機会となった。同日に幼児教育保育学科の学生たちが日頃の学びの成果を発表する「幼教フェスタ2010」が開催され、後輩との親交も図られた。大学・短期大学ともに旧友や恩師、母校との絆を深めるホームカミングデーは、日々の忙しさからしばし解放される、安らぎのひとつとなった。



## 第1回常磐大学主催『知的書評合戦ビブリオバトル』開催



優勝したコミュニティ振興学部地域政策学科3年の田村夏海さん。

『知的書評合戦ビブリオバトル』常磐大学大会が、1月8日に開催された。ビブリオバトルとは、発表者が紹介したい本のプレゼンテーションを5分間行い、その後、聴講者や発表者と2、3分の質疑応答を実施。最終的に、聴講者、審査員、発表者が「一番読みたくなった本」に投票して順位を決定する知的ゲームだ。紹介する本は漫画以外ならジャンルは自由、レジュメやパワーポイントなどを使用しないことも特徴の一つ。まだビブリオバトルの認知度は低いものの、楽しみながらいろいろな本に巡り会い、視野を広げる機会を提供してくれる絶好のイベントである。また、本大会の開催により、関西地区大学が中心であったビブリオバトルを関東地区大学に広めるよいきっかけとなった。



## 鈴木暎一教授が地域文化功労者として文部科学大臣より表彰

地域における芸術文化の振興に功績のある団体や個人に贈られる『地域文化功労者』に、コミュニティ振興学部の鈴木暎一教授が選ばれ、文部科学大臣より表彰を受けた。表彰分野は文化財保護。鈴木教授が永年にわたり茨城県文化財保護審議会会長の要職を務め、地域の文化財保護に大きく貢献してきたことが高く評価されての受賞となった。

鈴木教授は「自分が表彰の対象になるとは意外ですが、地域のつながりが希薄になりつつある現在、地域の歴史と伝統を顧みて地域振興に役立てることは重要なことだと思います。これからは弘道館の復元による世界遺産登録などを目標に、水戸市の歴史的景観の整備に携わっていきたいですね」と、文化財が果たす社会的な役割と今後の抱負を語った。



鈴木暎一教授

## 2010年度茨城県表彰で中原教授と富田教授(団体表彰)が受賞



中原経子教授

2010年度茨城県表彰が行われ、人間科学部健康栄養学科の中原経子教授が『功績者表彰』を受賞した。中原教授は茨城県栄養士会の理事として、永年にわたり茨城県民の栄養改善を中心とした県の健康増進事業に尽力するとともに調査研究を実践。

栄養士の資質の向上に大きく貢献してきた。今回の受賞に際して中原教授は「これまで長い間、食に関する仕事をして来られたのも、私を支えてくれた方々のおかげです。今回の受賞は、そんな皆様を代表していただけたものだと思います。これからも、学校や地域、そして各家庭などにも働きかけて食生活の改善に取り組んでいきたいと考えています」と語っていた。



富田信徳教授

2010年茨城県表彰において、人間科学部現代社会学科の富田信徳教授が理事長を務める『社団法人いばらき被害者支援センター』が『功績団体表彰』を受賞した。同センターの目的は、犯罪被害者や遺族が日常生活や刑事手続きの中で経験するさまざまな問題からの回復を支援すること。被害者支援活動を行う民間機関としては全国で2番目に発足し、今回の受賞直前に設立15周年を迎えた。富田教授は「諸澤英道理事長のご指導のもと、高い理想を掲げて一歩一歩活動を進めてきたことが評価されたのだと思います。これまで支援して下さった多くの方々に、心より御礼申し上げます」と感謝の意を表した。

この受賞は、犯罪被害者や遺族が日常生活や刑事手続きの中で経験するさまざまな問題からの回復を支援すること。被害者支援活動を行う民間機関としては全国で2番目に発足し、今回の受賞直前に設立15周年を迎えた。富田教授は「諸澤英道理事長のご指導のもと、高い理想を掲げて一歩一歩活動を進めてきたことが評価されたのだと思います。これまで支援して下さった多くの方々に、心より御礼申し上げます」と感謝の意を表した。

常磐大学 高等学校

News!

## 第2学年特進コースを対象に校外学習合宿を実施



12月18・19日、第2学年特進コース在籍生徒を対象に校外学習合宿を行った。今回が初めてのこの試みは、夏季休業中の大学訪問、冬季休業前にしての進路講演会、そして今回の合宿を通して生徒の学習に対する意識高揚を図ることを目的とした、進路指導の一環として企画されたものである。自分から学び取ることの大切さを知り、自主学習に対する姿勢や学習に対する取り組み方の再点検の機会をつくるきっかけとなるよう意識した。

生徒の感想には、「自ら進んで勉強に取り組むようになった」「苦手分野も挑戦してみようと思うようになった」などの声が多く聞かれた。自ら学び取る姿勢や自ら切り拓こうとする姿勢は学習面にだけでなく、「生きる力」を身につけるために必要なものであろう。生徒が自ら学び、そしてたゆまず努力することの大切さを知り、また身につけていくために、今後ともサポートしていきたいと考えている。

智学館 中等教育学校

News!

## 百人一首歌留多大会開催～楽しみながら、日本の伝統に親しむ～

今回で第3回目を迎えた百人一首歌留多大会。校内には生徒会が100枚の絵札を飾ってくれたり、「智学館 Sho-do Girls」が元気いっぱいの題字を書いてくれたり、全校的な雰囲気も高まって恒例の行事となりつつある。

大会のレベルも上がり、「うかりける…」「ハイッ！」上の句が詠まれると体育館に元気な声がこだまするほどである。集中して詠み手の声に耳を澄まし、誇らしげに高々と取り札を積み上げる生徒、思ったように札が取れなくて悔しがらる生徒、生徒の表情もさまざまである。今回は上級生と下級生の対決もあり、しんと冷える体育館で白熱した対戦が繰り広げられた。秘策のノートを作りゴロ合わせで覚えたり、チームごとに覚える歌の担当を決めたりして、行事に一生懸命に取り組む姿が見られた。「札が取れて嬉しかった」「またやりたい」という生徒の声も多く、楽しみながら日本の伝統に親しむよい機会となった。



常磐大学 幼稚園

News!

## 水戸H.Hコーチの指導を受けてサッカーに熱中する園児たち

新しい年を迎えて間もない1月21日、常磐大学幼稚園の遊戯室と大学キャンパス内の見和グラウンドから、子どもたちの歓声が聞こえてきた。年少組は遊戯室で、年中組と年長組はグラウンドで、子どもたちの大好きなサッカー遊びが始まった。フットボールクラブ水戸ホーリーホックからビブスやボールを携えて3名のコーチが来園し、楽しいサッカーボールの遊びを教えてくれた。



学校法人常磐大学は、2010年2月に水戸ホーリーホックと連携協力協定を締結しており、その事業として2010年8月29日に行われた「常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデー」で、年長組22名がエスコートキッズを務めてからの交流となった。年中組と年長組は、グラウンドでサッカーゲームも行い、時折、鋭いシュートも見られるなど、コーチの適切な指導に園児たちの成長が感じられる一日となった。



ゴールを狙ってボールをける年長児。

ボールを転がしてコーンに当てる年少児。

schedule

2011年度学事日程(4~6月)

月	日	内 容	
4	3	(院・大・短)入学式 (院コミ)オリエンテーション	
	4	(大・短)オリエンテーション・ガイダンス(4/7まで) (院人・院被)オリエンテーション	
	6	(智)入学式	
	7	(高)入学式	
	8	(院・大・短)授業開始	
	9	(幼)入園式	
	5	14	(院・大・短)通常授業日
		16	(大・短)第1回オープンキャンパス(5/20まで)
	6	3	大学説明会
6		(院人)秋セメスター入学出願期間(6/15まで)	
11		(大・短)第2回オープンキャンパス	
13		(院被・院コミ)秋セメスター入学出願期間(6/20まで)	

※諸般の事情により日程が変更になる場合があります。

**水戸夕学講座** 2011年度前期 開催予定(6月分まで)

※開催日やテーマが変更になる場合があります。

- 4月14日(木) 姜 尚中  
東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授  
「母(オモニ)なるものから見た東北アジア」
- 4月18日(月) 川島 隆太  
東北大学加齢医学研究所 教授  
「さらば脳ブーム」
- 4月28日(木) 栗谷 仁  
A.T. カーニー株式会社 パートナー  
「利益創出のためのコストマネジメント思考法」
- 5月12日(木) 佐々木 俊尚  
ITジャーナリスト  
「電子書籍とタブレットがもたらすもの」
- 5月26日(木) 阿部 秀司  
株式会社阿部秀司事務所 代表取締役 プロデューサー  
「売れる映画を作る」
- 5月27日(金) 佐野 元春  
ミュージシャン  
「ソングライティングとは何か」
- 5月31日(火) 遠藤 功  
早稲田大学ビジネススクール 教授、株式会社ローランド・ベルガー 会長  
「『日本品質』で勝つ!」
- 6月2日(木) 武田 双雲  
書道家  
「夢の叶え方」
- 6月9日(木) 中村 哲  
ベジャワール会 現地代表  
「アフガンとの約束」
- 6月15日(水) 干場 弓子  
株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン 取締役社長  
「ヒットに方程式はあるか?」
- 6月22日(水) 辻野 晃一郎  
アレックス株式会社 代表取締役社長兼 CEO、グーグル株式会社前社長  
「異才・奇才を活かす組織~私がソニーとグーグルから学んだこと~」

【問い合わせ】常磐大学エクステンションセンター  
TEL. 029-232-2852 FAX. 029-232-2861

**寄付者ご芳名** (敬称略) [2010年11月~12月受付分]  
ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

■教育実践研究所の行う事業支援

280,000円 諸澤 篤子 \*

■諸澤幸雄奨学金の創設・充実

企 業	
1,500,000円	20,000円
株式会社西山工務店 *	株式会社グランドスポーツ
100,000円	芳名のみ
株式会社関電工茨城支店	株式会社システムディ
個 人	
200,000円	益子 栄市 北見 要至
竹中 治利 *	松浦 邦彦 工藤 典人 *
120,000円	吉田 雅幸 後藤 雅子
中村 和彦 *	6,000円 齋藤 智子
100,000円	坂井 知志 * 櫻井 いつみ
草野 朋子	5,000円 佐藤 誠一
宮内 典仁 *	井上 裕 篠田 良治
30,000円	澤藤 隆 清水 敏成 *
立原 久 *	寺門 治久 関 いづみ *
24,000円	宮本 正弘 高瀬 純彦
大槻 行徳 *	2,000円 瀧田 雅之
関 敦央 *	荒井 功 千葉 茂 *
22,000円	鈴木 文雄 長南 直宏 *
鈴木 辰一 *	滝田 一 土屋 清文
12,000円	1,000円 津村 勝之
清宮 一彦 *	平山 良則 遠山 政彦
11,000円	芳名のみ 中村 正樹
久松 雄大 *	坏 良一 根本 富也
10,000円	井坂 義博 平戸 政明
池上 里佳	石川 和義 前野 芳志徳
江幡 重美	石引 尚子 三澤 進
助川 勉	江幡 裕子 水見 俊介
関 康秀	海老澤 弘子 宮内 純
生井 実	太田 郁恵 楊 貴子
保坂 泰夫 *	小貫 東里 山崎 雄一
本城 範長	河口 公一

諸澤幸雄奨学金の創設・充実 累計寄付金額 60,865,326円

◎複数回お申し込みくださいました方は芳名に\*を付し、金額は累計額を表示いたしました。

【寄付金の申し込みおよび問い合わせ】

学校法人常磐大学 寄付資産運用課  
TEL. 029-232-2759 E-mail : kifu@tokiwa.ac.jp  
※寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

編集後記

各専門分野での永年の活動が評価され、鈴木暎一教授が文部科学大臣より地域文化功労者表彰を、中原経子教授と冨田信徳教授(いばらき被害者支援センター)が茨城県表彰を受賞しました。そしてこのトポスも、1号発行から15年が経過。これからも一層努力し、良い紙面づくりに努めてまいります。



## ■常磐大学・常磐短期大学 学長あいさつ

常磐大学・常磐短期大学 学長 森 征一

私の考える良い学校とは、この学校で学ぶことが出来て良かった、と学生が心から満足のできる場所ではないか、と思います。この満足感はおそらく、学校を通して知り合った教職員と学生との人間的な触れ合いを通して、よりよい生き方を学び取ることができたことから生まれるのではないのでしょうか。

教職員は学生の成長を喜び、学生は教職員に尊敬と感謝の念を抱く、そのような関係の中でこそ、相互の信頼に基づく強い絆が生まれ、皆が安心して研究、教育、勉学に励むことができ、人は育つのです。

学校法人常磐大学の創立者である諸澤みよは、人は皆それぞれかけがえのない能力を持っていることを認め、その能力を伸ばしてあげることが学校の役割であり、その能力を活かして生きていくことが、一人ひとりの幸福と社会の発展に繋がると考えました。そのようにみよが考えたのは、人づくりは「教育の力」によるという揺るぎない信念があったからであり、みよは教職員にこの教育力を期待したのだと思います。

学長就任に当たり、本法人創立の原点に戻って、その建学の精神を思い起こし、学長の責務を精一杯務めて参ります。



- ①一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。慶應義塾大学教授を経て、2001年同大学法学部長・同大学院法学研究科委員長。2005年学校法人慶應義塾常任理事。2010年学校法人常磐大学常任理事。
- ②西洋法制史、中世ローマ法学
- ③2011年4月1日

## ■智学館中等教育学校 校長あいさつ

智学館中等教育学校 校長 石川 良一

笑顔の見える活力ある授業、そして活力ある進学校、これが智学館中等教育学校です。6年一貫教育の中等教育学校として3年間、智学館は進んできました。そしていよいよ義務教育の前期課程から後期課程に入ります。この大事なスタートの時期に校長の大役を仰せつかりました。

自ら考え、判断し、行動を起こす。子どもたちは常に新しく新鮮な授業を教師と一緒に奏でていきます。あくまで授業は自分が一瞬一瞬主役でなければなりません。一つひとつの基礎学力を、観察・実験・実習を通して自分の頭というよりは体全体にしみこませる。智学館は一クラス30人以下の少人数編成であるので、しっかりとした教育を通し、世界を視野に入れた子どもたちを育てていこうと思います。



- ①茨城大学教育学部卒業。2006年常磐大学高等学校教頭。2008年智学館中等教育学校教頭。
- ②数学科
- ③2011年4月1日

## ■理 事

学校法人常磐大学 理事

諸澤 篤子

- ①上智大学大学院外国語学専攻博士課程満期退学。2004年学校法人常磐学園(現学校法人常磐大学)評議員。2008年学校法人常磐大学常任理事。2009年常磐大学教育実践研究所所長。
- ③2011年3月1日



学校法人常磐大学 常任理事

保坂 泰夫

- ①慶應義塾大学法学部法律学科卒業。2000年東京いすゞ自動車株式会社取締役、2002年イワフジ工業株式会社監査役。2010年学校法人常磐大学理事長室相談役。
- ③2011年4月1日



## ■評議員

学校法人常磐大学  
評議員

渡邊 光雄

- ①東京教育大学大学院教育学研究科教育学専攻博士課程単位取得退学。1992年筑波大学教授。2006年常磐大学人間科学部教授。2008年常磐大学人間科学部教育学科長。
- ③2011年3月1日



学校法人常磐大学  
評議員

内山 竹彦

- ①慶應義塾大学大学院医学部微生物学免疫学専攻修了。1987年東京女子医科大学主任教授。2007年常磐大学人間科学部教授。2008年常磐大学保健室長。
- ③2011年3月1日



学校法人常磐大学  
評議員

秦 順一

- ①慶應義塾大学大学院医学研究科単位取得満期退学。1990年慶應義塾大学教授。2005年国立成育医療センター総長。2008年常磐大学人間科学部教授。
- ③2011年3月1日



## ■大学役職者

①略歴 ②専門・担当・科目等 ③就任年月日

常磐大学副学長

依田 泉

①エール大学大学院中近東言語・文明学科博士課程修了。2006年常磐大学国際学部教授。2007年常磐大学国際交流語学学習センター長。  
②西アジア文明の言語と歴史  
③2011年4月1日

常磐大学副学長

長谷川 幸一

①慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。2004年常磐大学人間科学部教授。2010年常磐大学人間科学部現代社会学科長。  
②組織論、社会科学方法論  
③2011年4月1日

常磐大学大学院  
人間科学研究科長

森山 哲美

①慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。博士(心理学)。2000年常磐大学人間科学部教授。2007年常磐大学副学長。  
②行動分析学、学習心理学、比較心理学  
③2011年4月1日

常磐大学大学院  
被害者学研究科長

小柳 武

①東洋大学社会学部卒業。2002年法務省法務総合研究所研究部総括研究官。2007年千葉少年鑑別所長。2010年常磐大学国際被害者学研究所教授。  
②犯罪心理学、被害者学  
③2011年4月1日

## ■新規採用教員紹介

(就任年月日:2011年4月1日)



常磐大学大学院  
被害者学研究科教授

藤本 哲也

専門●犯罪学、  
刑事政策学



常磐大学人間科学部  
健康栄養学科専任講師

石田 喜美

専門●リテラシー教育



常磐大学人間科学部  
教育学科助教

粕谷 亘正

専門●幼児教育学、  
保育学



常磐大学国際学部  
英米語学科教授

伊藤 礼子

専門●英語史



常磐大学  
コミュニティ振興学部  
総合講座准教授

外山 健二

専門●文学



常磐大学  
コミュニティ振興学部  
総合講座助教

置田 晶子

専門●宇宙線物理学、  
医学物理学



常磐大学高等学校  
教諭

櫻井 智子

科目●数学科



常磐大学高等学校  
教諭

武藤 はるか

科目●美術科



常磐大学高等学校  
教諭

小磯 綾子

科目●数学科



常磐大学高等学校  
教諭

相馬 史歩

科目●数学科



智学館中等教育学校  
教諭

河原 孝哲

科目●社会科



智学館中等教育学校  
教諭

木村 光良

科目●数学科



智学館中等教育学校  
教諭

伊澤 健太郎

科目●数学科